

令和4年度
学校自己評価報告書

令和5年2月15日

学校法人ファースト学園
専門学校ファースト学園金沢校

学校評価委員会

委員長 加藤 泰博（校長兼事務局事務長）

副委員長 山上 むつき（副校長兼情報システム科・情報ビジネス科 学科長）

委員 片口 瑞穂（グローバルコミュニケーション科 学科長）
荒田 真一（情報システム科・情報ビジネス科 主任）
羽場 和馬（広報 主任）

目次

- I. 学校の現況
 - (1) 学校名
 - (2) 所在地
 - (3) 沿革
 - (4) 学科構成
 - (5) 学生数及び教職員数
 - (6) 施設の概要
- II. 評価の基本方針
- III. 教育目標
- IV. 本年度の重点目標
- V. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) 教育理念・目標
 - (2) 学校運営
 - (3) 教育活動
 - (4) 学修成果
 - (5) 学生支援
 - (6) 教育環境
 - (7) 学生の受入れ募集
 - (8) 財務
 - (9) 法令等の遵守
 - (10) 社会貢献・地域貢献
 - (11) 国際交流
- VI. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

I. 学校の現況

(1) 学校名

専門学校ファースト学園金沢校

(2) 所在地

〒920-0022 石川県金沢市北安江1丁目6番27号

TEL: 076-222-5088

(3) 沿革

1980年6月 北陸コンピューター学院設立
1984年12月 学校法人北陸コンピューター専門学校設立
1992年7月 ファーストコンピューター専門学校設立・北陸コンピューター専門学校を継承する
1994年3月 学校法人ファースト学園設立
1995年1月 文部省告示により専門士称号付与校となる
2004年6月 金沢市堀川新町に新校舎竣工
2016年4月 金沢市北安江に移転、校名を専門学校ファースト学園金沢校に変更

(4) 学科構成

課程：工業専門課程

学科		就業年限	入学定員	総定員
本科	情報システム科	2年	20名	40名
	情報ビジネス科	2年	20名	40名
研究科	情報システム研究科	1年	10名	10名

課程：文化教養専門課程

学科		就業年限	入学定員	収容定員
グローバルコミュニケーション科	進学2年コース	2年	40名	80名
	進学1.5年コース	1年6カ月		

(5) 学生数及び教職員数

学生数 73名 (令和5年2月15日現在)

教職員数 23名

(6) 施設の概要

階	教室数	特別室
1階		学生ホール、休憩所
2階	4教室	
3階	4教室	保健室
4階	4教室	

II. 評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。

自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者など、学校と密接に関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、業界関係者、卒業生、保護者等学校関係者から規定に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し「学校関係者評価」を実施する。

当該委員会の委員の助言、意見などの評価結果を学校運営等の改善に活用する。評価結果と改善への取り組みを本校ホームページに掲載し広く社会へ公表する。

Ⅲ. 教育目標

本校は、工業分野において、情報処理技術に必要な実務教育を行うことにより、技術者としての技術を培い、社会に貢献できる人材の育成を計る。文化教養の分野において、日本語教育等を通じて、日本文化への深い造詣を養い、地域社会・国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

Ⅳ. 本年度の重点目標

教育の質の維持・向上を図り、入学した学生が安心して学び、生活できる教育体制を実現する。そのため現代のニーズにあわせて、学科再編を行う。また前年度の自己評価を踏まえ、ガバナンスを強化する。

これにより7つの視点から目標を策定する。

1. 学科再編による教育環境の充実

1) 情報システム科と情報ビジネス科の再編

- ・情報システム科と情報ビジネス科を統合し、工業分野の専門課程とする
- ・現在のシステム科とビジネス科の区分けは同様のカリキュラムで実現

2) 学科を新設

- ・商業実務分野の専門課程とする
- ・令和5年4月開設を目指す

2. 教育内容の質の向上

1) 情報システム科・情報ビジネス科

- ・社会で役立つ実践的授業の実施

2) グローバルコミュニケーション科

- ・検定合格率向上。N4合格90%
- ・プロフィシエンシー（実践的事項の熟達度）重視の教育実践と記録
- ・ICTの活用。Teamsを利用したタスクの実践と記録

3. 学習環境の整備

1) 学生が日常において教育を受け生活する校舎・設備の充実および教室美化の実践

4. 教員の質の向上

1) 教員間の評価、学生授業アンケートを通じた教育力向上

2) 専門分野以外のスキルアップ

5. 広報の強化

1) 情報システム科・情報ビジネス科

- ・年間計画をより明確にし、進捗状況の確認と最適な活動の実施
- ・SNSを活用した多角的な広報活動の実施
- ・本科定員の充足率70%と留学生入学者の確保

2) グローバルコミュニケーション科

- ・年度入学者40名及びN4レベルの志願者50%を確保
- ・多国籍展開。現行の3ヶ国に加え新たに2ヶ国から出願

6. キャリア支援の強化

1) 情報システム科・情報ビジネス科

- ・就職率100%

2) グローバルコミュニケーション科

- ・進学率および就職率100%

7. ガバナンスの強化

1) コンプライアンス体制や各種マネジメント体制の整備

2) 学校評価を受け、問題点を改善し透明性を担保

V. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
②学校における職業教育の特色は定められているか	4	3	2	1
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4	3	2	1
⑤各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①学校の理念は、明確に定められており、目的は学則第1条に明記している。
- ②実務教育を行うことにより、地域社会・国際社会に貢献できる人材を育成する。
- ③日本における教育環境及び社会情勢の分析、あるいは18歳人口の推移、入学生の多様化といった各種の条件を踏まえて、中長期的に目標を作成している。人材育成に関して、社会情勢を踏まえ、社会に貢献できる人材を育成する。
- ④学校案内やホームページ等を通し、広く一般に情報を公開している。また育成人材像や将来構想をより明確にすることにより、更なる周知されるよう努力している。
- ⑤業界関係者からの意見を参考に、求められる人材を把握し、教育に反映させている。

2. 課題

A) ④の項目について

現在、学科の専門課程を変更することに伴い、育成人材像や将来構想などを明確にし新たにビジョンを再構築している。今後も周知されるようホームページのリニューアルを含めて改善に努めていく必要がある。

3. 今後の改善方策

- ##### A) 引き続きビジョン策定とホームページの改善や関係業界への周知に努める。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
④教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
⑤業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
⑥教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
⑦情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①理事長・学校長の方針に基づき運営方針を策定している。日常業務は各学科長が具体化している。また各種委員会が定期的に開催され、事業計画に沿った各業務や教育活動を報告し、内容の見直しや効率化の検討を行っている。
- ②理事会・評議委員会において承認を受け策定している。執行状況は各部署が管理を行い、年度末に総括すると共に改善点を検討し、次年度に反映させている。
- ③運営組織については、「組織図」「業務分担表」において明確にしている。各部署は、事業計画にそってそれぞれの業務を遂行し、有効に機能できるよう連携を図っている。
- ④案件に応じて、校長の承認を得て、確定事項となる。特に重要な案件については、理事会において審議され、確定する。
- ⑤体制・規定の整備に着手し、進行中である。
- ⑥本校の実施している教育活動の情報は、ホームページで公開している。
- ⑦学生管理（学籍、成績、出欠、入学願書、就職、学費等）は、各データをコンピューターでの管理を行い、作業の効率化を図っている。また全教職員に対して、パソコンを配布し、イントラネット構築による業務のIT化を積極的に推進している。

2. 課題

- A) ③の項目について
明確化されているが、見直しが必要である。
- B) ⑤の項目について
まだ一部整備されていない。

3. 今後の改善方策

- A) 必要に応じて改定していく。
- B) 委員会を設置し、整備していく。

(3) 教育活動 (情報システム科・情報ビジネス科・情報システム研究科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
⑩資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
⑪人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①教育理念に沿う内容にて教育課程を編成し、教育を実施している。
- ②業界が求める人材の把握を行い、より対応できる人材育成を実施している。
- ③カリキュラムは定期的に社会のニーズに合わせて見直し、目的と目標を明確化している。
- ④インターンシップ及び企業研修や企業人を招いての授業の実施などにより専門職への意識を高めている。
- ⑤提携企業と連携し、より実践力を身につけるために助言を求めカリキュラムを実施している。
- ⑥年2回のインターンシップへの参加を促し、連携企業での実習などを取り入れている。
- ⑦授業アンケートや生活アンケートを実施し、システム化することによりわかりやすく情報を共有している。
- ⑧学校関係者評価委員会を開催し、各分野の関係者からの意見を取り入れる機会を得ている。
- ⑨学則、その他細則に従い、シラバスに明記した内容にて評価・認定をしている。
- ⑩確実に履修できるように、関係教員の指導体制を強化し指導している。
- ⑪学期毎に常勤教員・非常勤講師を問わず、学校・学科の人材育成目標を共有し、より良質の教育を目指している。
- ⑫常勤教員・非常勤講師を問わず、実務経験を持ち、指導力・向上心ともに高い人材を採用している。
- ⑬研修などに参加し、教員の資質向上や先端的な知識・技術の向上を心掛けている。

2. 課題

- ・特になし

3. 今後の改善方策

- ・特になし

(3) 教育活動（グローバルコミュニケーション科）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
④授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
⑤成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
⑥資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
⑦人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
⑧関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①教育理念に沿う内容にて教育課程を編成し、教育を実施している。
- ②学科のディプロマポリシーを策定し、学習成果目標を明確化している。
- ③学科のカリキュラムポリシーを策定し、各科目の目的と目標を明確化している。
- ④各期末に授業評価アンケートを実施、集計している。
- ⑤学則、その他細則に従い、シラバスに明記した内容にて評価・認定をしている。
- ⑥ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの中で「日本語能力検定N3以上の取得」を位置づけている。
- ⑦ガイドラインに従い、要件を満たした人材を確保している。
- ⑧ICT・オンライン教育に関するウェビナーや日本語教育機関の運営に関する研修に積極的に参加している。

2. 課題

A) ④の項目について

アンケート結果のフィードバック、及び各教員の振り返りと次期への改善案やアクションプランが明確になっていない。

3. 今後の改善方策

A) アンケート結果を各教員にフィードバックし、その上で各科目担当は、結果を受けての振り返り及び評価が低かった項目についての改善案を考え提示することとする。

(4) 学修成果（情報システム科・情報ビジネス科・情報システム研究科）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
②資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
③退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
④卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①就職支援の専任職員を配置している。会社訪問や校内就職ガイダンス、校内会社説明会などを積極的に行っている。また就職フェアやインターンシップへの参加を促している。直接実施できない場合などは、オンラインなどで行う環境を整えている。今年度の就職率は、100%を達成した。
- ②各種検定を校内受験出来るようにし、受験しやすい環境を整えている。また習得が不十分な学生には個別に対策授業を行っている。
- ③成績の悪い学生については補講により対応している。出席率の低い学生については本人や保護者と面談し個人に合わせて対応している。
- ④在校生に関しては、ある程度把握している。卒業生には同窓会事務局を通しての近況確認を行った。また、学園祭にて卒業生と職員の対話や在校生との対談の機会を設けた。今後も定期的に情報発信と個人情報の確認を行う。
- ⑤卒業後、一年位はある程度把握しているが、その後は特に確認をしていない。

2. 課題

A) ③の項目について

出席率の低い学生について、対応はしているが退学者が出ている。更に退学を予防する対策が必要である。

B) ⑤の項目について

卒業後のキャリア形成への効果をあまり把握していない。

3. 今後の改善方策

A) 出席率向上に向け、本人や保護者との面談を増やし、問題点を共有し改善していく。

B) 定期的な個人情報確認作業にあわせて卒業生の状況を把握し、卒業生と連携が出来る体制作りを行う。更に学生に必要とされる教育を行えるようカリキュラムの改善をする。

(4) 学修成果（グローバルコミュニケーション科）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①進学率の向上が図られているか	4	3	2	1
②資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
③退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
④卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①全体及び個別の進学指導を行い、希望に合った分野への進学ができています。
- ②授業の中では常に検定を意識した指導を行い、検定前の時期は集中対策授業を行っている。
- ③厳しい出席管理、生活管理を行い、失踪、退学につながるような予兆を見逃さないよう学生の様子に日々気を配っている。
- ④一部は把握できている。

2. 課題

A) ②の項目について

ディプロマポリシーではN3合格以上を掲げており、現段階では未定だが、このステップとなるN4合格者が想定より少なかった。（2022年12月受験）
残りの一年でN3合格を目指す。

B) ④の項目について

連絡がつく卒業生には追跡調査をしている。確認はできているが記録していない。

3. 今後の改善方策

A) コミュニカティブな運用能力向上と検定合格の両立は難しい課題ではあるが、授業を効率化し練習を精選すること、複数回の試験で漢字の定着を図ること、演習を増やすことで合格率アップを目指す。

B) 在留更新、資格変更、就職先などの情報については可能な限り確認し把握、記録する。

(5) 学生支援（情報システム科・情報ビジネス科・情報システム研究科）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①進学・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
②学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
⑦保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
⑧卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①専任職員を配置し、進学・就職に関する支援を実施している。
- ②クラス担任、就職に関する専任職員、精神保健福祉士など学生の相談内容に応じて対応できる体制を整えている。また定期的に面談を行い、早期に問題を発見・解決出来るようにしている。
- ③各種奨学金の紹介、学校内奨励金制度、学費分納制度などで支援を行っている。加えて給付金や補助金制度を利用し、学生の経済的支援を行っている。
- ④定期的な健康診断を実施し、校内に保健室を設置している。またメンタルヘルスの授業を行っている。
- ⑤支援する体制を整えている。
- ⑥一人暮らしの学生には家庭訪問や定期的なアパート点検を実施し、また保護者面談などを行い学生の生活環境の把握に努めており、場合に応じて適切な支援を行っている。
- ⑦各学科に合わせて定期的に保護者面談を行っている。また必要に応じて臨時にも行っている。保護者からの電話などでの相談にも随時対応している。
- ⑧年一回の近況確認を行う。卒業生からの依頼がある場合には、進路や就職などの相談に応じている。
- ⑨委託訓練を含む社会人向けの付帯授業を実施している。

2. 課題

- A) ⑧の項目について
卒業生からの依頼がある場合には相談にのっているが、積極的に支援している状態ではなく、体制も十分とはいえない。

3. 今後の改善方策

- A) 定期的に卒業生に連絡し、情報を更新していき、必要な卒業生に対して積極的に支援できる体制を構築する。

(5) 学生支援（グローバルコミュニケーション科）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①進学に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
②学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
⑦送り出し機関や紹介者と適切に連携しているか	4	3	2	1
⑧卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
⑨在日外国人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①進学指導の時間を設け、進学先選択、受験指導、入学手続き、転居に係る支援を行っている。
- ②学習、住居、アルバイト等、学生からの様々な相談に、都度対応し、迅速に対処している。
- ③各種奨学金の紹介、学校内奨励金制度、学費分納制度などで支援を行っている。加えて給付金や補助金制度を利用し、学生の経済的支援を行っている。
- ④定期的な健康診断を実施している。また体調不良者が出た場合には受診に付き添い、サポートしている。国保及び医療保険にも全員加入している。
- ⑤金沢の特性を活かした活動や日本への理解を深めるための学科特有の活動を行っている。
- ⑥留学生宿舎を借り上げ、入居サポート、衛生定期点検を行っている。
- ⑦問題が発生した場合は現地と連絡を取り、双方からの助言、指導を行っている。
- ⑧支援する体制を整えている。
- ⑨聴講生制度を設け、周知している。

2. 課題

A) ⑨の項目について

周知が十分でなく、広く認知されていない。

3. 今後の改善方策

A) チラシ等を用いて金沢国際交流財団や各市町村の国際交流協会への周知を図る。またホームページでのSEO対策、及びSNSなどを使って周知に努める。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
②施設・設備は、学生生活の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
③学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
④防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①必要に応じて施設・設備は整備されている。学科再編などによる学生数増加に備えて改修工事を行った。
- ②修繕が必要な場合は、迅速に対応し都度整備を行っている。
- ③関係各所と連携を取り、必要な体制を整備している。
- ④学校安全計画に基づく危機管理マニュアルの作成をしている。定期的に消火設備についての点検及び防災訓練・防災講話等を実施している。不備な箇所については随時修繕を行っている。

2. 課題

A) ④の項目について

防災に関するマニュアルの策定・見直しが不十分である。

3. 今後の改善方策

- A) 不十分なマニュアルの改定や体制を見直し、早期に改善に努める。

(7) 学生の受入れ募集（情報システム科・情報ビジネス科・情報システム研究科）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2	1
②学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
③学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	4	3	2	1
④学生納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

①ホームページやSNSを活用し、学校説明を行っている。資料請求者や高等学校には学校案内・募集要項を配布し情報提供を行っている。また専任の広報担当者が定期的に高等学校を回り、広報活動を行っている。その他、高等学校でのガイダンスや体験授業、独自の学校見学会、定期的なオープンキャンパスの開催などを行っている。

②広報が対象の高等学校等を回り直接募集活動を行うほか、リクルート機関を使って行っている。

③教育成果の情報伝達を学校案内やホームページに記載し広く伝える。また各学生の母校に訪問し個別に報告している。

④設備・教材費の価格変動が激しく、それらの変化に対応する必要がある。

2. 課題

A) ④の項目について
一部教材費の不足がある。

3. 今後の改善方策

A) 必要な設備・教材を精査し購入する。今後の動向により教材費の改定を行う。

(7) 学生の受入れ募集（グローバルコミュニケーション科）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①留学生送り出し機関等に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2	1
②学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
③学生募集活動において、教育成果（資格取得・進学状況等）は正確に伝えられているか	4	3	2	1
④学生納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

①パンフレット、ホームページ上で学科を紹介し、募集要項を多言語で作成している。

②現地の日本語学校や送り出し機関と連絡をとり、現地にて学校説明と選考試験を実施している。また今後も更なる多国籍展開を目指す。

③現地への報告を行っている。

④教育内容に応じて適切な金額と思われる。また他校と比べても著しい違いはない。

2. 課題

・特になし

3. 今後の改善方策

・特になし

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
③財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
④財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①土地・建物は法人所有であり、学生数も増加している。
- ②ほぼ予算・収支計画通りになっている。
- ③外部の会計事務所に会計処理及び監査を委託している。
- ④ホームページにて公開している。

2. 課題

- ・特になし

3. 今後の改善方策

- ・特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
④自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①関連する法令を遵守している。
- ②教職員の情報はもとより学生の個人情報については細心の注意を払っている。
- ③実施された評価を受け、随時改善を行っている。
- ④公開を行っている。

2. 課題

- ・特になし

3. 今後の改善方策

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①協力校に対し、勉強会に教室を提供している。
- ②外部のボランティア募集についてチラシの掲示や呼びかけを行い、学生に参加を促している。
- ③教育訓練、高校生への特別授業などを開講し、訓練や学びの機会を提供している。

2. 課題

A) ②の項目について

ボランティア活動にあまり参加していない。

3. 今後の改善方策

- A) ボランティア活動の趣旨を理解させ、積極的に参加するよう指導をしていく。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
①留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
④学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

1. 方針・取り組み状況

- ①全学科において留学生を受け入れている。
- ②入国管理局の告示基準に従って、必要な手続き・報告を行っている。
- ③留学生の母国語を話せるスタッフを必要に応じて配置し指導を行っている。
- ④ホームページ、SNS等を通じて教育活動や学修成果を伝えている。

2. 課題

- A) ②の項目について
一部入管への届出、報告漏れがあった。
- B) ④の項目について
ホームページやSNSでの情報発信、報告が少ない。

3. 今後の改善方策

- A) 担当者交代及び月初のミーティングで、TO DOリスト確認を行う。
- B) ホームページ上の「お知らせ」、SNSへの投稿を適宜行い、積極的な情報発信を行う。

VI. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

専門学校ファースト学園金沢校では自己点検・自己評価は、令和２年度より本格的に実施している。

評価項目については、「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて実施している。

自己点検・自己評価の結果について学校外の関係者による評価を受けるため「学校関係者評価委員会」を組織し、委員会での評価・提言を学校運営の改善に繋げている。

評価項目では、ほとんどの項目で「４．適切」、「３．ほぼ適切」との評価となり、教育目標達成に向けた教育活動に取り組んでいると考える。

しかしながら、変化の激しい社会において必要とされる人材を恒常的に輩出し、社会貢献していくために常に改善を繰り返し取り組んでいく必要がある。

新型コロナウイルス感染症による影響も落ち着きを見せており、学生の動きも出てきている。特に留学生を受け入れるグローバルコミュニケーション科は、今後多くの学生を受け入れることになると考えられる。

今後は継続的に多方面での改善を図るとともに、評価結果を学校運営等の改善に活用していく。